

(要旨) ARCS 動機づけモデルに基づいた授業評価と改善方略提案システムの設計

071-G8118 鈴木雄清

授業の内容や方法の改善のために、多くの大学では学生による授業評価アンケートが実施されている。ほとんどの場合、アンケートの結果から授業をどのように改善すればよいかまでの解決方略までが示されることはない。鈴木(2002a)は Keller の ARCS 動機づけモデルに照らして授業を評価し、その結果に基づいて適切な改善方略を取れるよう支援するガイドブックを開発している。評価実験の結果から、システムの改善方略の有効性が明らかにされている。一方、ID の知識に乏しい教員にとって、提案された方略リストの提示のみでは、必要な方略を選択して具体的に授業改善に結びつけるのは難しいという問題があった。

そこで本研究では、ID の専門家ではない教員が学生による ARCS 動機づけモデルに基づいた授業評価の結果から、授業改善できるようなシステムを設計する。具体的には、まず、学生に鈴木(2002a)の「ARCS 評価シート」で授業を評価してもらおう。次に、評価の低かった ARCS モデルの下位項目について、教員に「教員向け ARCS 動機づけチェックリスト」による質問をする。最後に、その結果に基づいて教員に解説や事例を提示する。

ARCS の下位分類に対応した「教員向け ARCS チェックリスト」の作成し、分類する。リストの分類ごとに解説や事例を用意する。作成したプロトタイプを、教員を対象に評価実験をする。

「教員向け ARCS チェックリスト」の作成にあたって、Armstrong & Keller(1992)の「動機づけ実施チェックリスト(MDC)」、Keller(2009, 鈴木監訳 2010)の「科目の興味度調査(CIS)」の項目を大学教員向けの表現に改めた。これらに加えて、鈴木(2002a)の方略リストや鈴木(2002b)の ARCS モデルに基づくヒント集、Keller(1987, 2009, 鈴木監訳 2010)のリストを参考にして、155 項目からなる質問形式の「教員向け ARCS チェックリスト」を作成した。さらに、作成したリストを 36 項目からなるクラスタに分類した。授業改善に関する書籍や文献を引用して、クラスタごとの解説や事例を作成した。

作成したプロトタイプを、ID や教育工学の専門家ではない 3 人の大学教員を対象に評価した。その結果、いずれの教員も自分の授業について改善案を挙げる事ができた。改善案の多くは、事例や解説に基づいて出されたアイデアであり、本研究で提案するシステムの有効性が示唆された。今後は、結果のランキング方法の検討や「教員向け ARCS チェックリスト」の改訂や解説や事例の充実したうえで実装し、評価する必要がある。